



(JIS A 5758の種類)  
G・F-25LM-10030(SA-2)  
JSIA F☆☆☆☆

# SC-SA2 / EVOMAX

シリル化アクリレート系

主剤と硬化剤の化学反応により硬化する2成分形のシーリング材で、引張応力の低い低モジュラスタイプです。耐候性・耐久性・動的追従性に優れます。ガラスまわりに使用可能で撥水汚染が生じません。

### シーリング材性状

外観	基剤	ペースト状				
	硬化剤	ペースト状				
	カラーマスター	ペースト状				
混合比	基剤：硬化剤：カラーマスター	100:10:3.3				
JIS A5758に基づく性能	スランブ(mm)	縦	5°C	0		
			50°C	0		
	スランブ(mm)	横	5°C	0		
			50°C	0		
	弾性復元性(%)		92			
	被着体		アルミニウム(ガラス★)			
	引張応力(N/mm <sup>2</sup> )	23°C	0.2			
		-20°C	0.3			
	定伸長下での接着性	23°C	NF			
		-20°C	NF			
	圧縮加熱・引張冷却後の接着性		NF			
	人工光曝露後の接着性		NF★			
水浸漬後の定伸長下での接着性		NF				
体積損失(%)		2.2				
耐久性区分		10030				
参考となる性状	有効期間(月)		6			
	押し出し性(秒)	5°C	5			
		23°C	3			
	可使時間(時間)	仕様	低温度	中温度	高温度	
		5°C	6	—	—	
		23°C	3	5	8	
		35°C	—	—	3	
	指触乾燥時間(23°C・時間)		4以内	10以内	20以内	
密度(g/mL)		1.3				
H型引張接着性	被着体	条件	応力・伸び	50%引張応力 N/mm <sup>2</sup>	最大引張応力 N/mm <sup>2</sup>	最大荷重時の伸び(%)
	アルミニウム	加熱後	23°C	0.10	0.56	590
		水浸漬後	23°C	0.10	0.43	570
	モルタル	養生後	23°C	0.08	0.48	590
		加熱後	23°C	0.10	0.63	600
	ガラス	水浸漬後	23°C	0.11	0.43	580
		養生後	23°C	0.08	0.46	570
	ガラス	加熱後	23°C	0.10	0.61	600
		水浸漬後	23°C	0.10	0.45	590
		促進曝露後	23°C	0.13	0.42	510

混合比は質量比です。  
★人工光曝露後の接着性は被着体にガラスを使用しています。  
試験結果の「—」は、試験項目外を示し、「NF」は「破壊なし」を示しています。  
H型引張接着性試験は、JIS A1439に準じて実施しています。  
「加熱後」の加熱温度は耐久性試験の圧縮加熱温度で、耐久性区分の記載がないものは80°Cです。  
結果は代表値を記載しています。  
シーリング材の厚みが薄い場合、薄層未硬化現象を起こすことがあります。

### カラー

カラー名(対応色)			
ホワイト	○	ダークブラウン	○
ライトグレー	○	ベージュ	○
グレー	○	ダークアンバー	○
コンクリートグレー	○	ブラック	○
ダークグレー	○	ステンカラー	○
カラーマスター荷姿		155g×20個/ケース	

※色調については、色見本帳でご確認ください。

### 荷姿

ベースセット	4L SET×2缶/ケース
e-can対応	—

### 適材適所一覧表

カーテンウォール	メタルカーテンウォール	方立方式	ガラス回り目地	◎	
		パネル方式	方立無目ジョイント	◎	
PCカーテンウォール	石材先付け タイル先付け 塗装・吹付け		パネル間目地	◎	
			ガラス回り目地	◎	
各種外装パネル	ALCパネル (縦壁ロック・横壁アンカー構法)		PCパネル間目地	◎	
			窓枠回り目地	○	
			ガラス回り目地	◎	
	塗装アルミニウムパネル	強制乾燥 焼付塗装	パネル間目地	塗装あり	△
		強制乾燥 焼付塗装	窓枠回り目地	塗装なし	◎
	塗装鋼板		パネル間目地	◎	
			窓枠回り目地	◎	
	ほうろう鋼板		パネル間目地	○	
			窓枠回り目地	○	
	GRC、押出成形セメント板(ECP)		パネル間目地	塗装あり	△
			窓枠回り目地	塗装なし	○
	金属断熱サンドイッチパネル		パネル間目地	◎	
		窓枠回り目地	◎		
ガラス	単窓	ガラス回り目地	◎		
	連窓	ガラス回り目地	◎		
	ガラス突合せ	ガラス回り目地	◎		
金属製建具	建具回り	水切り・血板目地	◎		
	工場シール	建具間目地	◎		
笠木	金属笠木	笠木間目地	◎		
	石材笠木 PC笠木	笠木間目地	○		
コンクリート壁	構造スリット		構造スリットの目地	塗装あり	△
				塗装なし	◎
	RC壁、壁式PC		打継目地・ ひび割れ誘発目地	塗装あり	◎
			窓枠回り目地	塗装なし	◎
	湿式石張り (GPC石目地を含む)		石目地(大理石除く)		
			大理石目地		
	タイル張り		窓枠回り目地	○	
			タイル目地	◎	
	外装 パネル	ALC薄型パネル		タイル下躯体目地	◎
				窓枠回り目地	◎
	外壁以外の各種目地	屋上	シート防水等の端処理		
			コンクリート スリット目地		
床		石張り・タイル張り	石・タイル目地		
		PCパネル(PC段床パネル含む)	PCパネル間目地		
水回り			浴室・浴槽		
			キッチンキャビネ・流し台		
		洗面台回り			
		排水口回り・貫通パイプ回り		塗装あり	
				塗装なし	
		手摺など支柱脚部回り		塗装あり	
				塗装なし	○
		室内壁(開仕切り)目地			
	塗膜防水材下地処理				

※詳細については、シーリング材総合カタログでご確認ください。

### 使用プライマー

プライマー	No.65	
タイプ	1成分形ウレタン系	
ホルムアルデヒド放散等級	JSIA F☆☆☆☆	
外観	微淡黄色透明	
主成分	合成樹脂 シランカップリング剤	
乾燥時間(分)	5°C	60以上
	20°C	30以上
	35°C	15以上
塗布後有効時間(時間)	8	
開栓後有効時間(不使用時密栓)	当日内	
有効期間(月)	6	
含有溶剤	酢酸エチル・酢酸ブチル メチルエチルケトン	
主な適用被着体	アルミニウム・ガラス・コンクリート	

※注意事項:  
●プライマーの施工時には、はみ出しや飛散にご注意ください。プライマーは完全に硬化すると下地に強固に接着し、有機溶剤にも溶解しなくなります。  
施工当日のなるべく早い時間帯にトルエンなどを染み込ませたウエスなどできれいにふき取って下さい。  
硬化後に削り取るなどの処置をした場合、除去の際に下地を傷つける可能性がありますので、ご注意ください。

## 建築用シーリング材 2成分シリル化アクリレート系

## ハマトイト施工手順

ハマトイトの性能を十分に発揮するためには、配慮の行きとどいた施工が必要です。

## 1 施工前の打合せ

- 目地の納まりの検討(形状・寸法、2次排水処理、施工条件など)を充分に行ってください。

## 2 施工前の準備

- 材料、プライマーの選定、副資材の選定、施工要領書の作成をしてください。

## 3 施工前の検査

- 施工箇所の確認、目地の形状、寸法や段差の確認を行ってください。
- 被着体の欠陥(ジャンカ、欠け、ひび割れなど)の有無の確認と必要に応じて補修をしてください。

## 4 下地の清掃と乾燥

- 被着体が充分乾燥しているか否かを確認してください。
- 油分、汚れ、ゴミなどによる接着の不良を防ぐため、乾拭きした後溶剤に浸したきれいな布で拭くなど被着面を入念に清掃してください。
- 清掃溶剤は被着体の油分、汚れ等、接着阻害要因を充分に除去できるものを選定し使用してください(メチルシクロヘキサン等)。
- 尚、塗面を溶解する場合はノルマルヘキサンを使用してください。

## 5 バックアップ材の装てん

- 目地寸法に適したバックアップ材を装てんしてください。
- 目地の深さに余裕のない場合は、底部にボンドプレーカーを貼って二面接着を確保してください。(ワーキング ジョイントの場合)

## 6 マスキングテープ貼り

- 被着面にテープが食い込まないようにご注意ください。
- 粘着剤が残存しないもの、かつプライマーの溶剤で接着に悪影響を及ぼさないマスキングテープを使用してください。

## 7 プライマー塗布

- 刷毛などで塗りムラのないように均一に塗布してください。
- プライマーの飛散、はみ出しのないように注意して塗布してください。
- 所定の乾燥時間を確保し塗布後有効時間内にシーリング材を充てんしてください。

## 8 基剤と硬化剤の混合

- 2成分形(カラーマスター方式も含む)のシーリング材は、硬化剤、カラーマスターを同時に基剤の中に混入し混練機械で綿目模様なくなるまで、充分混練してください。(攪拌機フープ径は229φを使用してください)
- 混練の際には、4L缶専用の山型パドル(羽根)を使用してください。
- 混練時間は、15分程度で正転→反転→正転を行い、かつ缶壁・缶底、羽根部分の混ざりにくいところは、途中ヘラで材料をかき落としてください。

## 9 コーキングガンへの充てん

- 混練したシーリング材は、一定可使用時間内に速やかに、気泡が入らないように注意してコーキングガンに充てんしてください。

## 10 シーリング材の充てん

- 目地幅に合ったノズルで被着体に充分な圧力がかかり、かつ、目地底部まで充てんできるようにノズルの角度と充てん速度を考慮してください。

## 11 ヘラ仕上げ

- シーリング材を充てん後は速やかにヘラで仕上げてください。
- ヘラ仕上げは、押さえを充分に行い平滑に仕上げてください。

## 12 マスキングテープ除去

- マスキングテープの粘着剤が被着体に移行することがありますので、充てん後は速やかにマスキングテープを除去してください。

## 13 目地周りの清掃

## 14 シーリング材の養生

## 15 総合検査

※施工にあたっては材料を適正に使用しなければ性能を発揮できません。施工手順等を遵守して取り扱ってください。

## 取り扱い上の注意事項

本書は、適切な条件のもと、適切な保管・処理・使用を前提とした場合の製品性能、一般的な施工方法・施工手順等を記載したものにすぎません。個別・具体的な工事における、当該工事条件下での製品の選択、保管・処理・使用、施工方法・手順等は、専門家である使用者たる施工業者様の責任であります。

## 取扱い作業

- 1 容器から出し入れする時はこぼれないようにしてください。
- 2 取扱中は保護手袋・前掛けを着用してください。
- 3 密室での作業に於いては、換気を充分に行ってください。
- 4 作業の状況に応じ、保護メガネ、保護マスク等を着用してください。
- 5 取扱後は手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 6 直接皮膚に触れないようにしてください。
- 7 眼に入らないようにしてください。
- 8 蒸気を吸い込まないでください。
- 9 飲み込まないでください。
- 10 ハマトイト使用中は禁煙を厳守してください。
- 11 硬化するまで触れないで養生してください。
- 12 廃棄処理は、産業廃棄物処理業者に委託してください。

## 応急処置

- 1 皮膚に付いた場合はすぐに付着物をウエス等で拭き取り、大量の水と石けんでよく洗ってください。
- 2 かゆみや炎症が発症した場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 3 眼に入った場合は清潔な水で充分に洗浄し、直ちに眼科医の診断を受けてください。
- 4 蒸気を吸って気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動してください。
- 5 頭痛等の異常がある場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 6 飲み込んだ場合は多量の水または牛乳を飲ませて吐き出させ、直ちに医師の診断を受けてください。

## 取扱場所

- 1 火気のあるところでは絶対に使用しないでください。
- 2 取扱場所には局所排気装置を設けてください。
- 3 子供の手の届くところに置かないでください。

## 保管

- 1 密閉し、直射日光・火気・湿気・水を避け、屋内に保管してください。
- 2 有効期限内に使用してください。
- 3 開封後は速やかに使い切ってください。

## 用途以外の使用禁止

本品は建築用途に開発された製品です。本用途以外には絶対に使用しないでください。

※当カタログに記載されたハマトイト製品には、有害性・引火性のある製品があります。詳細な内容は、安全データシート(SDS)を参照してください。

本書に記載されている、当社製品の施工及び使用に関する情報およびアドバイス(あわせて以下「本件情報」といいます。)は、Sikaが現時点での知識及び経験に従い誠意をもって提供するものであり、当社製品が適切に保管され、適切に取扱われ、また、Sikaの推奨に従って通常の状況下で適切に施工されることを前提としております。本件情報は、本書に明記された施工条件による施工と明記された製品にのみ適用されます。例えば被着材の変更など、施工条件が変更される場合、または、異なる用途で使用される場合は、Sika製品を使用する前に、Sika技術サービス部門にお問い合わせ下さい。本件情報は、使用者が意図する製品の用途や目的について検証することを免除するものではありません。すべての注文は、Sikaの現時点での販売条件と納品条件に従うことを条件として、受注いたします。使用者は、使用される製品に関する最新のカatalogを常に参照して下さい。それらはご要望に応じて営業担当及び弊社ホームページ上から提供いたします。

2408 SJ TMSB DPL

